

令和7年度 授業改善推進プラン

育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	<p>全国学力・学習状況調査 本校平均正答率 72.0% 港区平均正答率 72.0% 東京都平均正答率 70.0% 全国平均正答率 66.8%</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使う力を身に付けさせる。 日常生活における人の関わりの中での伝え合う力を育てる。 言葉を手掛けたりしながら論理的に思考する力や自ら表現する力を向上させる。 言葉がもつよさを認識する力や言語感覚を育てる。 国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 全国平均や東京都平均と比較すると正答率が高く、今までの学習を理解している姿がうかがえる。全国学力・学習状況調査結果から、思考力・判断力・表現力等は知識及び技能と比べると下回っている。 「情報の扱いについて」の正答率がその他の内容と比較して下回っている。 記述式の問題の正答率が低い。このことから、自分の知識や考えていることを文章で表現することが課題である。 <ul style="list-style-type: none"> 目的をもって学習に取り組めるよう、明確で必要感のある学習課題や学習計画を設定する。また、児童がめあてをもって学習に取り組んだり、自分の学びを振り返り、次に生かしたりすることができるよう指導する。 指導者が学習の系統性を意識し、児童の学習経験や既習事項等をしっかりと把握した上で、必要に応じて繰り返し指導したり、次の学習を見通して指導したりするなど、実態に応じた指導を行う。 学習に応じて話し合ったり伝え合ったりする場（ペア・グループでの話し合い）を意図的・計画的に設定する。また、話したり聞いたりする必要感のある場面を設定する。その際、話したり聞いたりするときのポイントやルールを分かりやすく具体的に提示する。 「書くこと」への苦手意識や抵抗感を減らすために、日常的に文や文章を書く機会を増やす。そのために文章を要約する機会を日常的に増やす。 「書くこと」において、記述に入る前の題材設定、情報収集、内容・構成検討等の段階における指導を丁寧に行うなど、学習過程に沿って段階的に指導する。また、記述後の共有も大切にし、友達だけでなく自分の文章の良さにも気付けるようにする。 「読むこと」において、日常的に読書の時間を増やしていくことによって、文章を読む機会を増やす。 音読の指導を低学年から繰り返し行うことで、音読の習慣を付け、

令和7年度 授業改善推進プラン

			読解力を高める。また、細かく教師が文章の意味を問い合わせることで、一つ一つの語彙の意味や、文章の内容を考える習慣を付ける。
--	--	--	---

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
社会	<ul style="list-style-type: none"> 社会的な見方・考え方を働きかせ、課題を追及したり、解決したりする資質・能力を向上させる。 身近な地域や区や都についての理解を深め、地域社会に対する誇りや国土と歴史に対する理解と愛情を育てる。 社会生活に適応し、地域の発展に貢献しようとする態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料の読み取りを苦手としている児童が多い。 調べ学習を意欲的に行っている児童が多いが、知識として定着していない児童が見られる。 既習事項と自分の生活とのつながりや関わり方について考えることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学年では、体験や知識と資料・情報を結び付け、分かったことや気付いたこと、考えたことをノートにまとめ、交流する活動を行う。 高学年では、文章、写真、地図、年表など様々な資料に触れる機会を設け、できるだけ身近にある話題に触れながら、既習事項を活用し、自分の考えを話したり、記述したりしていく。 主体的に調べることができるよう単元内自由進度学習を取り入れていく。

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫	
算数	<ul style="list-style-type: none"> 論理的に考え、説明したり、判断や考えの正しさを説明したりする能力を向上させる。 文章問題を正確に捉え、立式する力を向上させる。 	<table border="1"> <tr> <td>全国学力・学習状況調査 本校平均正答率 70.0% 港区平均正答率 70.0% 東京都平均正答率 64.0% 全国平均正答率 58.0%</td></tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査結果から、計算技能の正確さには優れているが、計算の仕方や理由を言葉や数を用いて記述することに課題が見られた。 課題解決に向けて、自分の考えを図や式と関連付けて説明することが課題である。 児童の既習事項の定着については、個人差が大きい。 文章問題を解く際に、文章を正しく読解することが課題である。 	全国学力・学習状況調査 本校平均正答率 70.0% 港区平均正答率 70.0% 東京都平均正答率 64.0% 全国平均正答率 58.0%	<ul style="list-style-type: none"> 今まで学習したことをどのように使えるかという見通しをもたせ、問題を解決させる。 集団検討の中で、解決方法を言葉・式・図などを用いて発表する場面を設定する。 友達の考えに対して、共通点や相違点を見出し、新たに学んだことを明確にする経験を積ませる。 問題場面を正確に捉えるため、授業で文章問題を扱うときは、「分かっていることは何か。」「どんな条件が提示されているか。」「何を求める問題か。」を明確にするために色分けして提示するなど、板書を工夫する。
全国学力・学習状況調査 本校平均正答率 70.0% 港区平均正答率 70.0% 東京都平均正答率 64.0% 全国平均正答率 58.0%				

令和7年度 授業改善推進プラン

	<ul style="list-style-type: none"> 量的な感覚を身に付けさせる。 算数で学んだことを学習や生活に活用しようとする態度を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 量感をつかむことを不得手とし、長さ、重さ、面積、体積などの単位の変換が課題である。 友達の考えを聞いて、学びを深める経験が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> 身边にあるものを測定させたり、具体物や半具体物、ICTを活用させたりするなど、体験的な活動を多く取り入れることで長さや重さなどの量に関するイメージを豊かにする。 学習感想を書く際には、身に付けた能力を活用できる場面や、さらに学習を深めたいことなど、視点を提示して書かせる。
--	---	---	---

育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
<p>理科</p> <ul style="list-style-type: none"> 生き物や科学的事象に興味をもち、すすんで問題を解決しようとする態度を身に付けさせる。 自然に親しみ、見通しをもって活動することを通して、課題を科学的な見方で解決する力を向上させる。 自然事象や生き物についての知識・理解・観察・実験などの基本的な技能を身に付けさせる。 	<p>全国学力・学習状況調査 本校平均正答率 59.0% 本校平均正答率 61.0% 東京都平均正答率 60.0% 全国平均正答率 57.1%</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査結果から、思考力・判断力・表現力等内容は知識及び技能の内容と比べると上回っている。しかし、東京都平均と比較すると正答率は若干下回っている。 児童が実際に生き物に触れる機会が少ない。 仮説を立てて観察・実験の計画を立案することや、得られた結果から筋道を立てて自分の考えを説明することが課題である。また、論理的に結論を導いたりする力に課題が見られる。実験や観察をする際の器具の扱い方に関する知識やそれらを扱う技能を向上させることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能に関する問題で単元の最後に苦手な所や既習事項の復習をすることで知識を定着させることを意図して行う。学習の振り返りも大事にして、次の学習に生かす。 課題の題意を読み取る練習を積み重ね、着実に理解できるようする。 動植物との関わりや体験活動について、Shibahama Gardenや、区内外の施設等を活用し、実物に触れさせる機会を作り、児童が主体的に学ぶ態度を養うとともに、実体験に基づいた知識を得られるよう、まとめ方を工夫する。 自然事象について、「課題の発見」「実験方法の検討」「結果の予想」「観察・実験」「結果からの考察」「まとめ」「振り返り」の学習手順を明確にして、問題解決の活動を繰り返し、学習内容及び学習方法の定着を図る。 定着度合いの確認のため、前時や単元での学びをミニプリント等で復習する。 サイエンスアシスタントと連携を図り、観察・実験を行う際に、予

令和7年度 授業改善推進プラン

			備実験をして想定を立てて臨む。また、全ての児童が安全に実験器具を扱うことができるよう徹底する。目的に応じて扱うことを繰り返し指導する。
--	--	--	---

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
生活	<ul style="list-style-type: none"> 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようする。 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自身をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 6年生の全国学力・学習状況調査において理科や算数の観察や情報活用に強みが見られた。身近な事象に関心をもち、得た知識を日常生活に生かす力の育成が重要である。実体験と結びつけて表現する力を伸ばす必要がある。 活動と知識との結びつきが弱く、学びが断片的になっている。単発的な体験活動で「なぜそうなるのか」「どうしてそう感じたのか」などの思考が深まらない傾向があり、活動の意味づけが不十分になっていると考えられる。 自分の考えを整理し、根拠をもって説明・発信する力の育成が課題である。特に国語における記述問題の正答率が他の正答率と比べて、やや低く、児童にとって自分の思いや意見を文章化・言語化する経験が不足している。 自分の考えや感想を言葉で表現する力にばらつきが見られる。記述問題において正答率が低く、書く・話す機会の充実が今後の課題である。 主体性や自己有用感、ICT活用への自信を高めていく必要がある。質問紙では「ICTの活用に自信がない」「人前で考えを伝えることに不安がある」など、意欲や自信に個人差が見られる。 ICTを用いた学びや発表活動に対する不安が見受けられ 	<ul style="list-style-type: none"> 授業構成においては、「調べる→まとめる→発表する」といった探究型の学習プロセスを日常的に取り入れる。継続的な調べ学習を通して、思考の深まりと表現する機会をつくる。 体験を振り返り言語化することで、活動と学びを結び付ける指導を工夫する。 評価と振り返りの場面では、活動記録シートや振り返りカードを活用し、児童自身が学びの変化や成長を実感できるようにする。 身近な自然や地域、生活体験を通して気付きや表現力を育むために、活動の意味付けをし、友達との意見交換や記録・発表の機会を設定する。 ICT活用に関しては、写真撮影、録音、スライド作成など、操作がしやすく成果が明確に表れる活動を積極的に取り入れることで、児童の自信と達成感を高める。 指導体制の面では、ICT担当や図書担当との連携を強化し、調べ

令和7年度 授業改善推進プラン

		ので支援が必要である。	学習や発信活動を支援する体制を整える。また、学年内で指導の流れや教材を共有し、一貫した学びの構築を目指す。
--	--	-------------	---

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 曲想と音楽の関わりについて理解するとともに、自分が表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けさせる。 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴く力を育てる。 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が、音楽を形づくっている要素の働きを理解し、表現や鑑賞などに生かすことが十分にできていない。 音や音楽から、気付いたことや感じ取ったこととの関わりに気付くことに課題がある。 児童が楽しく音楽に関わることや、音楽を学習する喜びを得ることが少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽の構造と曲想との関わりなどについて実感をもって理解することができるよう、表現について思いや意図をもったり、曲のよさを見いだし味わって聴いたりする場面を設定する。 音楽を聴いたり表現したりする過程で、互いに気付いたことや感じ取ったことなどについて伝え合い、共有や共感をしながら学びを深める場面を設定する。また、教師や友達との対話を通して、他の見方や考え方を受け入れたり、自分の考えを振り返って見直したりすることで、自分の表現や聴き方を深めることができるようとする。 音楽によって喚起されるイメージや感情を自覚できるように、音や音楽との出会い方や学習過程を工夫する。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
図工	<ul style="list-style-type: none"> 造形的な観点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、表現するために必要な技能を身に付けさせる。 造形的なよさや美しさについて考え、発想・構想する力を育てる。 つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造する態度と情操を培う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分がイメージするものを表現する方法や表現する技能については、個人差がある。 自分の作品の良さや面白さを言葉で表現することへの抵抗感がある児童がいる。 つくりだす喜びを感じることが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 見通しをもって学習に取り組めるように、題材のねらい、材料の特性、制作手順を段階的に提示する。また、試行錯誤が十分にできる時間を確保する。 作品発表会で互いに思いを交流し、考え方や感じ方を広げる学習活動を行う。 つくりだす喜びを感じられるよう、材料や題材との出会い方を工夫し、制作中も必要に応じて個別に支援する。

令和7年度 授業改善推進プラン

育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それに係る技能を身に付けてさせる。 ・日常生活の中から問題を見出して課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。 ・家庭生活を大切にする心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・衣食住について学んだことを日常的に実践する経験に個人差があり、知識や技能の差が大きい。 ・日常生活における課題意識が低いため、日常生活の事象を課題と捉えたり、解決したりしようと思うことが難しい。 ・家庭生活を大切にしようとする心情は見られるが、家庭環境や生活状況から、自らの役割を果たしたり、生活をよりよくしようと工夫したりする場が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技能の習得状況に応じて、個別指導を行ったり、ICT機器を活用して復習しやすい環境を整えたりして、指導方法を工夫する。 ・学習の内容と自分の生活とを比較させ、日常生活の課題に気付けるようにする。 ・保護者の協力を得て、家庭での実践を多く行えるようにする。

育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・特性に応じた各種の運動の行い方及び健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けてさせる。 ・自己の課題を見付け、その解決に向けて判断するとともに、他者に伝える力を向上させる。 ・運動に楽しむとともに健康の保持増進と体力 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力調査の結果から、握力は、全国の平均を下回っており、男子も女子も共通して、握力に課題が見られる。 ・長座体前屈では、全国の平均を下回る学年が多く、柔軟性に課題が見られる。 ・体育学習では、自己の課題を見付けられる児童は多数いるが、課題解決しようとする力が十分ではない。 ・教師に課題解決の方法や練習方法等を聞きに来る児童が多い 	<p>【体力調査の結果から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師からの指導や出前授業の活動等を活用して、握力を向上させる。 ・校内に設置しているボルダリングを積極的に活用し、握力を向上させる。 ・体育学習の準備運動や整理運動等に柔軟を取り入れることにより、柔軟性を身に付けてさせる。 <p>【体育学習について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題意識をもたせて自ら課題解決できるようにするために、毎時間学習のめあての確認と振り返りを行う。 ・タブレット等を活用し、自己の現状を正しく把握することにより、課題設定につなげていくとともに、模範となる動きの共有を図る。練習方法等を動画で説明し、より具体的に課題解決につなげる。 ・模範となる動きを全体の場で、紹介することで、児童同士で教え合

令和7年度 授業改善推進プラン

	の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。	く、解決方法を思考する力が十分ではない。	い、学び合えるようにする。 <ul style="list-style-type: none">課題解決できる場を数多く設定し、自ら意図をもって選択したり、取り組んだりするようにする。運動の特性を教員が把握して授業に臨めるよう、定期的に実技研修を行う。日常生活においても、運動する習慣を身に付けさせられるよう、狭いスペースでも行える運動を紹介し、実践できるようにする。学校や学年全体で取り組む体育的活動を実施し、休み時間や休日にも体を動かせるようにする。
--	---------------------------	----------------------	--

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国際	<ul style="list-style-type: none"> 外国語の語感を養い、学んだ文や言葉を表現する力を育てる。 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて理解し、実際に活用する力を身に付けさせる。 アクティビティーや歌などを取り入れた外国語活動を通して、友達と外国語を使ったコミュニケーションを楽しみ、すくんで話そうとする力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「聞くこと」「話すこと」においては、目的や場面状況などに応じてすくんで話したり聞いたりする姿に個人差が見られる。 自分が英語で表現したいことを、習った文や言葉を使って構成していくことに課題が見られる。 知識の定着に課題が見られる。既習事項を使うことができず単発の学習になってしまっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 国際交流会などを行い、外国人の方と触れ合う機会を増やす。 NTと連携し、授業の中で外国の文化や習慣を児童に伝えるスマートトークを定期的に行う。 歌やチャンツ、フォニックスを取り入れ、英語の音とリズムを身に付けさせながら語彙や表現補法を習得させる。 児童が必要感や目的意識をもって学習を進められるようにアクティビティーやゴール設定を工夫する。 モデルセンテンスを提示し、スマートステップで進めていくことで理解を深められるようにする。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考える力を育てる。 自分を大切にし、他者を理解し思いやる心情や道徳的な判断力、実践する意欲と態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料を読み、登場人物の心情を考えることはできるが、自分事として捉え、自己の生活を振り返ることを苦手としている。 道徳科で学んだことを、普段の生活に生かしていくとする意欲が高まっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導観を明確にし、発問を精選することで児童から多様な考えを引き出す。 構造的な板書を意識して、学習を終えた後に児童が振り返られるようにすることで実践意欲を高める。

令和7年度 授業改善推進プラン

	<ul style="list-style-type: none"> ・社会のルールや学校の決まりなどを守り、より善い生き方をしていくとする規範意識を育む。 		<ul style="list-style-type: none"> ・展開後段では自己を見つめる時間を十分にとり、自分の経験やその時の感じ方、考え方と照らし合わせながら、更に考えを深めていくようにする。 ・日常生活における道徳的な実践を取り上げて紹介したり、価値付けたりするなど、日頃から全ての教育活動を通して児童の心を育てる必要がある。
--	---	--	--

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な他者と協働するような様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けさせる。 ・集団や自己の生活、人間関係の課題を見出し、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができる力を身に付けさせる。 ・自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び、人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め自己表現を図ろうとする態度を養う。 ・学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事における多様な集団活動を通して、支え合い、高め合う集団を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と協働する経験が十分でないため、自ら課題を発見し、解決する力に課題がある。 ・異学年集団において、学年枠を超えて互いを高め合う経験が不足している。 ・学級会等において、話合いの手順に沿って進めることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・代表委員会や高学年の児童の声を生かした自主的な活動について継続して取り組んでいく。 ・行事の前に、前年度の行事の写真や動画を見せるなどのオリエンテーションを取り入れる。 ・児童会活動やキャリア教育の時間を調整しながら、1年間に9回縦割り班活動時間を計画し、上学年の児童と下学年の児童が関わる時間を作る。 ・低・中・高学年ごとに学級会オリエンテーションを提示し、話合いの進め方を理解させ、実践できるようにする。

合 総	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
-----	-------------	----------------	----------------------

令和7年度 授業改善推進プラン

<ul style="list-style-type: none"> ・探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解できるようにする。 ・実社会や実生活の中から問い合わせを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようとする。 ・探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童はＩＣＴや図書資料を活用して情報を集める力を有しているものの、その情報を自分なりに整理・構造化し、他者に伝える力に課題が見られる。情報を収集し、整理・表現するスキルの向上が必要である。 ・話し合い活動などを通じた表現の経験が限定的である。課題を多面的にとらえ、他者に分かりやすく伝える思考と表現の力を育てていく必要がある。 ・児童が自分の考えを伝える手段が限られており、文章表現だけに頼りがちである。発表活動への不安も一因となっており、多様な表現の手段や経験が必要である。 ・質問紙では、ＩＣＴ活用に対する自信や学習意欲に個人差が見られた。収集した情報を整理し、学習課題と結び付けて活用する力に個人差が見られる。ＩＣＴや書籍を用いた情報収集はできても、それを分析・整理する段階でつまずく傾向がある。 ・自ら課題を設定し、継続的に探究する姿勢が身に付いていない児童がいる。特に自己有用感や「学ぶことで自分は役立てる」といった意識にばらつきがある。探究に向かう主体性、友達との協働性、自己を肯定的に捉える力を一層育てていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・探究のプロセスを明確化し、「課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ→発信」の流れを児童自身が理解し、自ら活用できるようにすることが重要である。プロセスを視覚的に共有することで、学びの見通しを持たせる。 ・表現活動の多様化を図り、児童が自分に合った発表手段（スライド、動画、ポスター、実演など）を選択できるようにすることで、表現に対する自信を育てる。 ・協働的な学びを促すために、グループでの話し合いや役割分担を明確にした活動を取り入れ、他者と学び合う経験を重ねる。 ・ＩＣＴと図書資料の併用により、情報を多角的に捉える力を養う。異なる情報源から比較・検討する経験を通して、探究の質を高める。 ・課題設定を支援し、探究の過程を可視化することで、協働や発表を通して主体性と自己肯定感を育てる指導を工夫する。
---	--	--